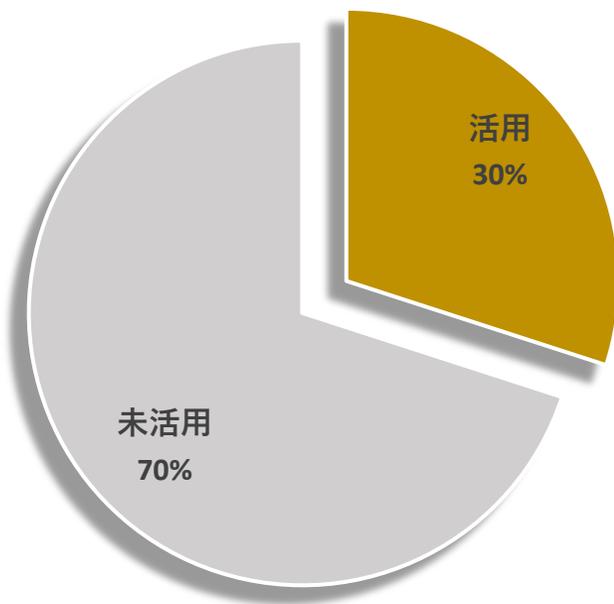


データサイエンス研修 紹介資料

企業におけるデータ活用の推進は急務と言われている

日本企業における データサイエンスの活用状況



※[文献1](#)、[文献2](#)、[文献3](#)、[文献4](#)
をもとに独自で作成

1. データ人材の育成

AI人材の不足が深刻化する中、自社で育成しないと競合との技術格差が拡大し、ビジネス変革の機会を逃すリスクがあります。「データで課題解決する力」を養うことで、戦略的な意思決定や新規事業創出が可能となります。

2. 社内のデータリテラシーの向上

データ誤解や非効率な意思決定が生じ、DX推進が遅滞します。全社員がデータを正しく読み解き活用できるようになれば、業務効率化や顧客ニーズへの迅速な対応が実現し、競争力が強化されます。

3. 全社的なデータ文化の醸成

部門ごとのデータサイロ化を解消し、データ共有・連携を促進することで、組織横断的なイノベーションが加速します。データに基づく意思決定が文化として根付けば、属人化リスクの軽減と持続的な成長基盤が構築できます。

リスクが積もれば**利益減少**にもつながり、
倒産に至る場合も。
※国が実際に発表しています。

対策として

- ・社内全員がデータサイエンスを理解する
- ・社内全員が実践できる環境づくり
- ・社内でのデータサイエンスの教育スキル向上

などがあり
データサイエンスを取り入れることによって、
考えられるリスクも減り、
利益の向上に繋がっていきます。

DXの本質はデータ活用にあり ～ ビジネス × データサイエンス ～

RIZAPの成功の鍵は、
サービスを科学的に提供できる
データサイエンス力にあります。

コンビニジム事業



会員データや利用動向をもとに徹底したデータ分析を実施し、リリースから1年で日本最大級の会員数を達成しました。
データドリブンなマーケティングとサービス設計が、急成長と高い顧客支持の原動力となっています。

ボディメイク事業



10万人以上の顧客データを活用し、科学的根拠に基づいた減量予測や個別最適化プログラムを開発しています。
トレーナーの属人的な指導に頼らず、データ分析により一貫した高品質サービスを提供できる仕組みを確立しました。

データサイエンスの属人化によるリスク

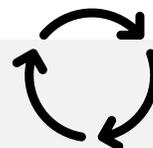
カテゴリー	リスク内容
業務停止・遅延	モデルの更新や分析が止まり、意思決定が遅れる
ノウハウ喪失	分析意図・根拠が引き継がれず、再構築困難に
モデル劣化	モデルが放置され、制度が低下
ブラックボックス化	分析手法や意味が分からなくなり、説明責任を果たせない
育成コスト増加	後任に一から教育が必要で、時間・人件費がかかる
信頼低下	データに基づく提案ができず、社内外の信頼を損なう可能性がある

RIZAPが提供するデータサイエンス研修の5つのポイント



全ての研修で グループワークを実施

実務を考慮したグループワークにより、知識の定着だけでなく、現場での応用力や協働力も強化します。



研修内容の カスタマイズ

社内でのDXおよびデータサイエンスの活用状況に応じたグループワークのカスタマイズが可能です。



対面形式による 講義

本研修では主に対面講義を採用しており、受講者の理解度に合わせたきめ細かな指導やフィードバックが可能です。



研修後の アフターフォロー

研修終了後も、RIZAPのデータアナリストへの質問、研修の定着化の確認調査などのフォローアップが可能です。



課題設計書 ・データ要件定義書

実務で使える課題設定書とデータ要件定義書を用意しており、研修で学んだ内容を現場業務に即座に展開できます。

計6回の研修によって、データサイエンスの基礎から実践までを網羅

実際に自社事業の成長をデータサイエンスで牽引してきたRIZAPだからこそ、机上の理論ではなく現場で役立つ実践的な研修をご提案できます。

第1回
“変化を実感する”
データサイエンス入門
(2時間)

第2回
“成功を生み出す”
データ分析基盤入門
(2時間)

第3回
“結果を出す”
集計分析入門
(2時間)

第4回
“成功にコミットする”
分析設計・要件定義入門
(2時間)

第5回
“進化を体験する”
機械学習入門
(2時間)

第6回
“本質を見抜く”
因果推論入門
(2時間)

- ・データサイエンスとは
- ・DXとは
- ・データサイエンス概要

- ・データの種類と特性
- ・データ構造の基礎
- ・分析基盤とは

- ・データ収集
- ・データの集計と分析
- ・データ可視化

- ・PPDACの概念
- ・問題設定力
- ・要件定義力

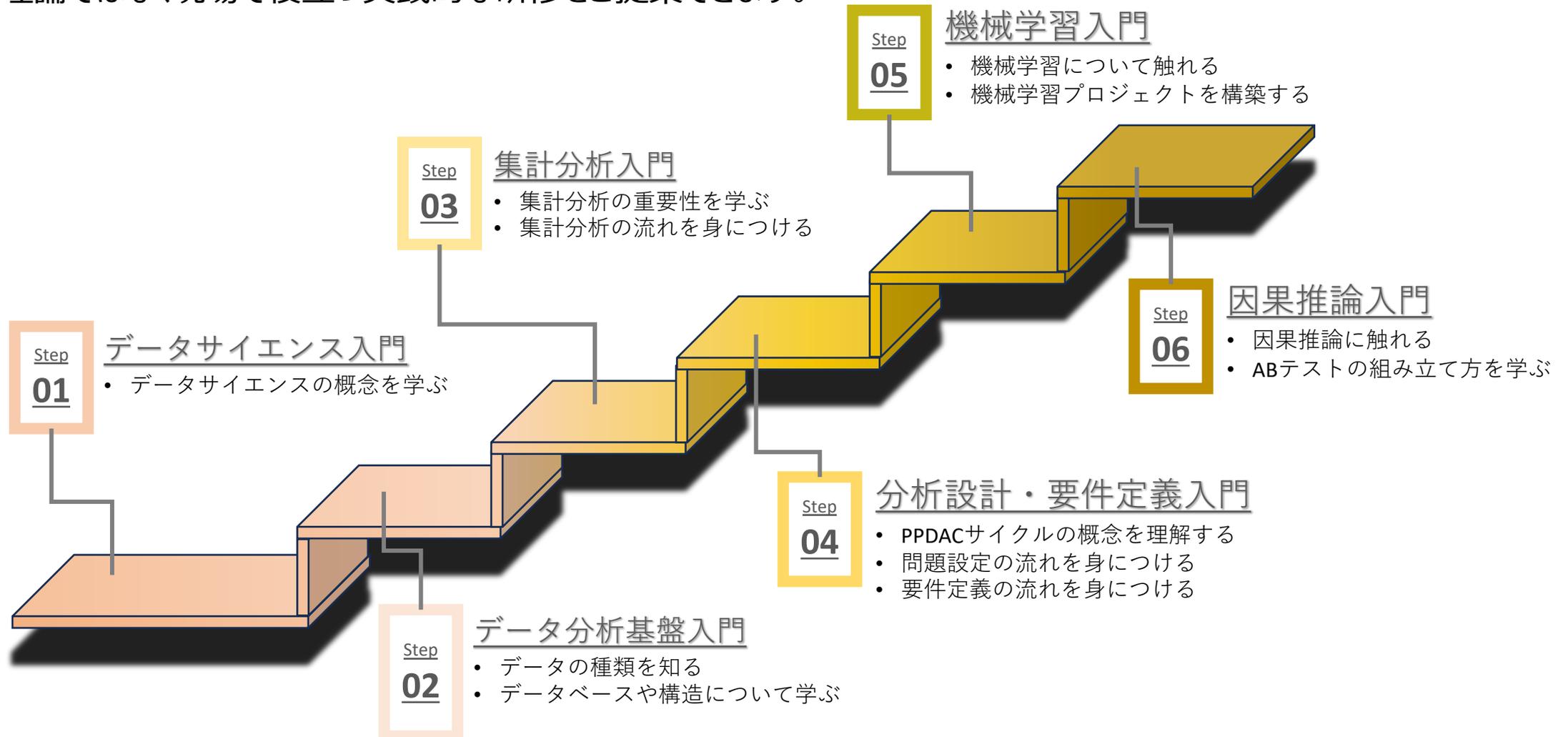
- ・機械学習の概念
- ・機械学習プロジェクトの構築
- ・機械学習プロジェクト体験

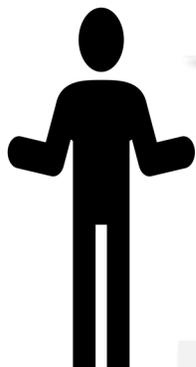
- ・相関と因果
- ・因果推論の基礎
- ・ABテスト設計体験

基礎～実務まで一貫して学ぶことができるため、
データサイエンスの初心者から、現場で働くデータサイエンティストまで対応しています。

計6回の研修によって、データサイエンスの基礎から実践までを網羅

実際に自社事業の成長をデータサイエンスで牽引してきたRIZAPだからこそ、机上の理論ではなく現場で役立つ実践的な研修をご提案できます。



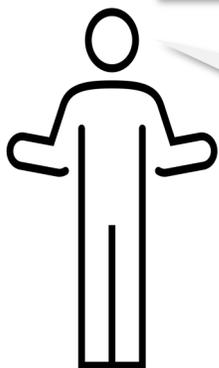


様々な視点からのFBがあり、視点が広がった。
リアルであってのグループワークはより当事者意識が出て、ワークに集中して取り組めた

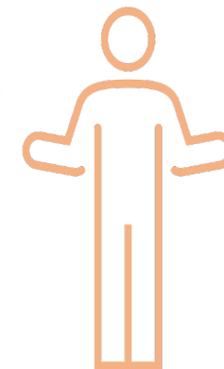
ビジネスの上で大事な内容だったため、
本日の参加者の多く（特にビジネス経験豊富な部長陣）は既に理解している内容かと思いますが、
改めてしっかり言語化して頂けたので有意義な時間となりました。
以前はアンケートや従業員サーベイなどを担当しておりデータ分析や活用をする側だったので
改めて問題解決に有効な手段と感じられました。

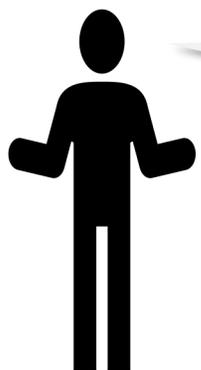


「分析して傾向を見ている」つもりではあったが、本当に自分がこれまでやっていたことは分析に入るのかと改めて感じた。今回学んだことを活かしてきちんとしたフローで分析を行っていきたいです。



膨大なデータから解を導くのではなく、
目的をもってデータを取得・検証するプロセスは改めて大事であると感じました。
Problem設計フォーマット、今後活用していきたいと思います。



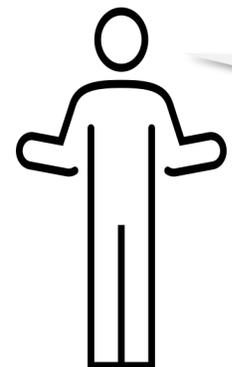


データサイエンスの興味が高まり、データ分析で何ができるのかがわかり、
ビジネス活用のイメージが湧きました。

難しい言葉もたくさん出てきたが、
自分でもデータ分析の学習をしようと思った



初心者にも分かりやすい言葉でご説明してくださり、
実際のワークで考えるご機会を与えて下さったので、
とても理解しやすかったです。



データ分析の重要性をケーススタディを通して
理解することができた。
また、ケーススタディの内容が現場感で実際に起きている事例と近いので、ネクストアクションをイ
メージしやすかった。

